

なぜ歌枕の地が、玉川にあるのか？

# いわき歌枕伝説

平安時代より、貴族たちは全国各地の名所を「歌枕」として和歌に詠み込み、その地は、歌枕に詠まれた名所として今も語り継がれています。玉川地区にも、古歌に詠み込まれた歌枕の地であったという言い伝えのある場所が残されています。

## ・緒絶の橋

陸奥の緒絶の橋や是ならむふみみふまずみ心まどはす(藤原道雅)  
 白玉の緒絶の橋の名もつらし砕けて落つる袖の涙に(中納言宣家)  
 逢ふことは緒絶の橋の橋柱また立ち返り恋ひわたるべし(久能親王)

これらの歌に詠まれている緒絶の橋は、島地区にあって、そこを流れていた川が沼となり、その沼に架けられていた橋が、緒絶の橋と呼ばれていたという言い伝えがあります。緒絶の橋というのは、その橋を架け替えれば、必ず架け替えた者が命を落としてしまうと信じられ、「魂の緒が絶える」という話に由来するといわれています。今では、沼も、そこに架けられていたという橋もなく、その場所を特定することは難しくなりましたが、100年ぐらい前までは、朽ちた橋柱が残っていたという記録があります。

## ・野田の玉川

藤原川の堤防には、「野田の玉川」を詠んだ歌の碑が建てられています。碑に刻まれているのはこんな歌です。  
 夕されば夕風こしてみちのくの野田の玉川千鳥鳴くなり(能因法師)  
 陸奥の野田の玉川見渡せば夕風越して来る月影(順徳院)  
 来る人もなこそその関の呼子鳥こえて別る野田の玉川(俊成卿)

歌碑は1944年に建てられ、筆を執ったのは、製薬王と呼ばれた星薬科大学の創立者・星一(錦町出身)でした。ここにこの碑が建てられたのは、藤原川のこの場所が、古歌に詠まれた歌枕の地だと信じられていたため、川のそばには、一本柳という場所もあり、人々はそこで歌を詠んだとも伝えられています。



# 歌枕の歴史ミステリー

## 歌枕の地は本物か？

玉川地区にあったとされる「緒絶の橋」「野田の玉川」のほかにも、いわきには、「沖の石」「末の松山」「勿来の関」などの歌枕の地があったという言い伝えがありますが、今も人々に広く知られているのは「勿来の関」だけです。

しかし、いわきにあった関所として史実に登場するのは菊多割だけで、勿来の関が実在したということは、実は確認されていません。そこから、歌枕の地と語り継がれてきた場所は、本当に歌枕の地なのかという疑問が生じます。

## 宮城県に実在している歌枕の地

調べてみると、緒絶の橋、野田の玉川、沖の石、末の松山、勿来の関といった歌枕の地は、宮城県の多賀城跡近辺に実在しています。全国的にいわきにあると信じられてきた勿来の関も、宮城県利府町に存在しているのです。

## なぜ、玉川に歌枕の地が！

ではどうして、歌枕の地がいわきにあるという言い伝えが生まれたのでしょうか。

いわきにはかつて、歌枕が詠み込まれた古歌に心を引かれ、自らも和歌・俳諧に傾倒した人物がいました。1670年に平藩主となった内藤義概です。風流大名と呼ばれた義概は、風虎を俳号として、10代後半から和歌に親しみ、数多くの和歌、俳句を詠み、家臣をはじめとして100人も門人がいたといわれています。そんな義概は、文化的な施策に力を入れ、多賀城周辺にあった歌枕のいくつかにふさわしい、それに見合う場所をいわきの地に探し出し、そこを歌枕の地に擬定し、定着させていったことが明らかになっています。玉川地区に「緒絶の橋」「野田の玉川」という歌枕の地が擬定されたのは、かつて、住吉大明神(大阪市住吉区)が和歌の神として信仰されていたことから、義概が住吉神社の周辺にこれらの地を探し出したためです。

さらにこの時、義概が、葛山為篤という人物に命じて編纂させた『磐城風土記』こそ、勿来の関が現在の場所にあったと記した最初の文献なのです。今なら「歌枕文学公園整備事業」とでも言えるでしょう。義概のこの文化事業によって、いわき各地に歌枕の地がつくられ、それが今日まで「ここが歌枕の地だ」という言い伝えを残すことになりました。

玉川地区に「緒絶の橋」「野田の玉川」があったという伝承も、そして実は「勿来の関」も、この時の産物であり、それが、いつの間にか史実と誤解され、今日まで脈々と語り継がれてきたと言えるのです。

## 打ち砕かれた歌碑の謎

義概、義孝、義稠、政樹と4代にわたって続いた内藤家の時代こそ、いわきにも文化の華が咲き誇った時代だと言われていますが、やがて藩財政が疲弊し、内藤家は、1747年に日向国延岡(宮崎県延岡市)に転封を命じられます。そしてその時、かつて領内に建てた歌枕を刻んだ歌碑はすべて打ち砕かせていわきを離れたと伝えられています。転封の直接の理由は、百姓一揆の責任をとっての処罰だとされていますが、内藤家は、代々、俳諧や和歌に親しみ、松尾芭蕉の奥の細道への旅も援助したといわれ、まつりごとよりも文学の世界に傾倒し、それに溺れていきました。磐城平藩の財政を揺るがした理由の1つはそこにあり、歌碑を打ち砕いたのは、そのような結果をもたらしたことを反省し、まつりごとを疎かにして和歌や俳諧に明け暮れていたその証拠を、自ら消すためだったとも言えます。

## 義概の思いは、今に伝わる

それでも、「勿来の関」がまるで史実であるかのように今に伝わり、玉川地区でも、「緒絶の橋」「野田の玉川」の話が長く語り継がれてきたように、内藤侯がいわきに蒔いた文化の種は、時が過ぎても、しっかりといわきの地に根づいています。これこそ、義概が、あの日、夢見た姿なのかも知れません。

安寿と厨子王のふるさと

# 玉川

ふるさととの歴史、文化、自然を訪ねる

# 玉川ふるさと散策マップ

発行 玉川地区区長会連合会  
監修執筆 黒沢賢一  
平成21年度ひと・まち元気創造事業補助金「元気なまちづくり事業」